

平成 23 年度

事業所名 : グループホーム 太陽荘(光ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	372200410		
法人名	有限会社 快互		
事業所名	グループホーム 太陽荘(光ユニット)		
所在地	紫波郡矢巾町又兵衛新田第5地割28番地2		
自己評価作成日	平成 23年 7月 9日	評価結果市町村受理日	平成 23年 11月 24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0372200410&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 23年 8月 19日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○利用者一人ひとりのペースを大事にしたケアを実践できるように努めている。
○矢巾町主催の行事や保育園・幼稚園・児童館等との交流を通して地域との繋がりを深めるように努力している。
○毎月の音楽療法や定期的なカラオケ行事を実施し、心身の活性化に繋げている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階の窓からは岩手山や早池峰山が見え、朝日も綺麗にみることができ、近くには幼稚園もあり静かな環境にある。毎月実施する音楽療法は利用者も楽しみにしており、家族や地域の方にも好評である。3つのユニットは、音楽やカラオケが好きなグループ、食べるのが好きなグループなど、それぞれに個性のあるグループとなっている。職員の年齢構成もバランスがよくそれぞれの持ち味を活かしているほか、3ユニットでお互い連携しあえることも大きな強みとなっている。地域との関係も、開設以降地道に関係づくりに努めてきたなかで様々な協力が得られるようになっており、3月の地震を機にさらに関わりが深まることが期待される。理念に掲げる「わ(和、輪、私、等々)」を背景として、利用者や家族、職員、3つのユニット、地域といった様々な交流・連携にみる調和が印象的な事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

平成 23 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 太陽荘(光ユニット)

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者を中心とした理念を作り、ユニット内の目に付きやすい場所に掲示し、理念の共有に努めている。	3年程前誰が見てもわかり易いように、又、考え方等において迷った時の指標とするように「和」を意識して作成しユニット毎に利用者、家族、職員誰からも見えるところに掲示している。家族からも「見やすいね」と好評である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園・幼稚園・児童館等との交流がある。近所の方からお花や野菜の差し入れがある等交流を深めている。また、地域行事に参加したり、太陽荘の行事に招待する等している。	外出時など積極的に挨拶したり、日常的に顔見知りになることを心掛けてきた。最近は姿を見ないと近所の人々が心配してくれたりする。3月の地震ではホッカイロを持ってきてくれたり、寒いことを気にかけてビニールハウスの利用をすすめてくれたりした。	地域とのかかわりは多様で、関係を深めていく工夫もなされている。開設以降7年間の地域に対する姿勢が結実した印象がある。今後も地域に開かれた事業所運営を継続していてもらいたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校のJRC活動や中学校の職場体験等を受け入れ、認知症の理解をしてもらえるような活動を行っている。今年度は家族会の講演に地域の方々をご招待し、認知症について理解していただけるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進協議会を開催し、利用者の状況や活動状況・外部評価やサービス公表に係る調査等の取り組み状況・結果を報告し、助言を頂く等活用している。	年1回は警察や消防署の方にも出席していただき意見を得ている。又、自治会長や民生委員からは地域の情報を頂き地域交流に役立てているし、新しい情報は包括支援センターから得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター・介護保険係と訪問・電話にて連絡を取りながら利用者の状況やケアの方針等相談し、助言・指導等頂きながら運営している。	介護保険情報の提供を得たり、スプリンクラー設置にむけての指導を受けたりしている。又、3月の地震後はすぐに来てくれたり、食料の差し入れを頂いたりした。地域包括支援センターも講演実施や様々な情報提供をしてくれるほか、利用者の在宅復帰ケースでも丁寧な関わりが得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修の他、内部研修に全職員が参加し、理解している。夜間は防犯のため施錠するが、日中は施錠せず、自由に出入りが出来るようになっている。	言葉による「ちょっと待って」「座って」などの制止をしてしまったりした時は、職員間で声をかけあったりカンファレンスで再確認している。利用者が外に自由に出入りする際は近隣住民が気にかけてくれるほか、そのことで近所づきあいが広がっている側面もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部・内部研修にて虐待への理解を深め、虐待が起こらないように努めている。		

[評価機関 : 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会と連携しながら担当者が利用者や家族のニーズに応じて対応しているが、詳しい内容まで理解している職員は少ないのが現状である。学ぶ機会が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前訪問から契約に至るまで本人・家族の心配事・要望等を聞くように努めている。また、解約時や法改正による契約の改定時にも説明を行い、十分に納得した上で契約して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートや面会時にお話を伺ったり、日常の会話の中で聞き取りをし、意見や要望をカンファレンスや全体会議・運営推進協議会にて話し合い、運営に活かせるように努めている。	家族アンケートや面会時の話から希望や意見等を把握するように心がけ、カンファレンスや会議などで検討し運営に活かせるようにしている。事業所からの様々な連絡や郵送物は家族にも好評で安心感につながっている他、家族会によって家族同士も顔見知りになり、より意見が得られやすくなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や職員アンケートを通して職員の意見や提案を聞く機会を設けている。意見や提案は会議にて報告・協議し、運営に活かせるように努めている。	3月の地震を契機に防災に関する、非常口の外側を車椅子でもスムーズに移動できるように、とかフェンスに開放部を作ることなど具体的な意見が多くだされ、できるところから実施している。	3ユニット体制は、それぞれのユニットごとの個性を生んでいくほか、他ユニットから客観視してもらうことでの気づきも得られ、大きな強みとなっている。今後も職員間の話し合いにより、各ユニットの独自性と事業所全体としての調和を図ってってもらいたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	待遇改善に配慮しながら楽しく、やりがいを持って働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の内部研修の他、適宜外部研修への参加の機会を確保し、資質の向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や町の連絡会への参加等を通じて交流の機会を確保している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問から契約に至るまでの段階で本人の心配事や要望に耳を傾け、可能な限り本人に見学を実施し、安心して入居出来るように努めている。また、入居後も希望・要望を汲み取れるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	あらゆる機会を捉えて家族の不安や困りごと・要望等を汲み取れるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容から求めているサービスを見極め、サービス全般について話し合いをしている。場合によっては他のサービスの情報提供も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員で声を掛け合いながら洗濯物たたみ・掃除・調理や食後の後片付け等を行っている。感謝の気持ちをしっかりと伝えながら良好な関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や月1回の手紙にて生活の様子を伝えたり、その中で意向を汲み取っている。家族に通院をお願いしたり外出を支援する等、協力し合いながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を頂きながら馴染みの人の話しをして頂いたりし、関係が途切れないように支援している。また、馴染みの場所の把握に努めている。	家族とのコミュニケーションから、利用者の馴染みの屋号でお話をしたり、よく話しに出てくる単語について家族から聞き、そのことを職員間で共有して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、食事の席等考慮している。レクリエーション等を通しお互いが励まし合える雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も面会に行く等して関係を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活リズムを出来る限り尊重し、本人のリズムで生活していただけるよう努めている。本人の希望・要望を日常の会話の中から引き出したり、推察する等してケアに活かせるように努めている。	共同生活のなかで利用者也我慢していることがあり、1対1で対応する時は普段我慢していることをだしてもらえようにし、思いを把握している。若い職員には孫に対するように様々な思いを話してくれることがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、家族への聞き取りを行うと共にセンター方式を使い家族に記入していただく等して把握に努めている。また、面会時にも家族に以前の暮らしぶりを伺ったり、日常の会話の中で話題に出す等している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のケース記録・申し送り簿・ユニット内の連絡ノート・各種チェック表等を記入し、状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスにて個々の現状について話し合い、面会時に家族の要望等を聞きながら介護計画を作成している。	毎月カンファレンスを行い、家族からの情報・職員間で共有している情報等を基に作成し3か月ごとに見直しをしている。本人の好きだったものや以前の仕事、思い出の場所などを把握しながらプランに活かしている。家族は協力的で熱心に意見をだしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録・申し送り簿・ユニット内の連絡ノート等を活用し、情報を共有しながらカンファレンスにて介護計画の見直しを行っている。その他、気付いた点や工夫した方が良い点等その都度話題にだしながら日々の実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外食・外出・通院介助等、利用者のニーズに合わせて出来る限り実現できるよう柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前からの関係を断ち切らないよう、かかりつけ医に通院する等支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前より通院しているかかりつけ医を大切にし、医療関係者と情報交換しながら関係作りに努めている。また、遠方のかかりつけ医の場合は、家族の協力を得ながら関係を継続していけるよう支援している。	近くのかかりつけ医は職員が通院の支援をし遠方の医療機関には家族に付き添ってもらっている。必要に応じて訪問看護師からかかりつけ医に連絡をとる等して、適切な情報提供とスムーズな受診ができるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で捉えた変化や気づきを荘内の看護師・訪問看護師等に報告し、相談・助言を頂きながら適切に受診できるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	通常の受診時から医療関係者と情報交換し、入院の際も日常生活ぶりを情報提供する等している。入院後も医療関係者と連絡を取りながら早期に退院できるよう支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化ごとに家族・主治医・訪問看護師等と密に相談しながら今後の方針を決めている。	看取りの直前まで支援したケースがある。状態や医療行為の程度などに応じて、家族など関係者と相談しながら方針を決めている。利用者側からは、ぎりぎりまで事業所で過ごしたいとの要望も出されている。	地域の医療体制を背景として、看取りまでの支援にはなかなか結びつかない状況もある。今後の利用者や家族の要望を想定するなかで、どのように医療機関の協力を得ていくか、長期的な視野で地域内の他の機関・事業所とも話し合っていってほしい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を全職員が受講し、実践力を身につけている。また、事故発生時の対応や急変に備えて職員間で対応方法を確認しあいながら支援している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防の協力を得ながら避難訓練を実施している。今回の大震災を受け、マニュアルの見直し・検討を行っている。また、近隣の方に避難訓練に参加して頂く等、協力体制作りに努めている。	地震対策も内部避難、外部避難の程度など消防署から具体的な指導をうけている。又、緊急時の避難経路(階段、非常口)についても見直しを行っている。10月頃はスプリンクラーを設置予定している。	職員間の話し合いや外部からの意見等、具体的な改善点を明らかにしながら取り組んでいる。今後も職員間で智恵をだしあい、地域の協力も得ながら安全面がより充実されることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や生活歴を把握した上で、それぞれに合った声掛けをし、トイレ時並びに入浴時は特に言葉掛けに配慮している。	利用者さん夫々に反応の良かった言葉を把握し、お願いする形式や一緒に行う形式、タイミング等適切な声がけについて、日々職員間で情報交換しながら支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか上手く表現できない利用者もいらっしゃるが、通院時や入浴時等の1対1の対応時本人の意向を聞きだせるように努めている。また、日々の表情や仕草等を良く観察し、何を望んでいるのかを推察しながらの支援に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な範囲で自由に、居室で過ごしたい方は居室で、皆さんと一緒に居たい方はホール等で、その時々一人ひとりの希望に沿って過ごしていただけるようにしている。その上で、歌やレク等働きかけを行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、ご自身に着る服を選んでいただいたり、愛用してきた化粧品で身だしなみを整えていただいたりしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの出来る力を活かしながら食事の準備や後片付けを職員と一緒にやっている。また、食事の好みを把握し、別メニューを提供したり、その方に合った食事形態で提供している。	日々の食事場面から好きなものや苦手な物を把握し、食べやすいもの、食べられるものを提供している。各ユニットで好みの傾向があり、それぞれの好みに応じて寿司やラーメンなど外食をすることもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を利用し、食事量や水分量を小まめに確認し、不足している時は定時以外にも召し上がって頂いている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、居室にて職員の見守りの中口腔ケアを実施し、口腔内の状態を確認している。本人の能力に応じて出来ない部分を職員が手伝っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを職員間で把握し、トイレ誘導行い、トイレで気持ちよく排泄出来るように取り組んでいる。	急ぎ足で歩く、部屋を出て左側に行く、きょうきょうする等行動により合図があるので利用者の合図を見逃さないように誘導し、失禁回数なども減少している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便状態を確認し、状況に応じてプルーンや乳製品を摂って頂いている。軽運動や腹部マッサージ・坐薬の使用等便秘にならないように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に1回のペースで入浴して頂いているが、本人の希望や気分に合わせて順番やタイミングを考慮している。	2日に1回を原則に行っているが、時間など利用者の希望に添うよう配慮している。入浴を好まない利用者も、声かけのタイミングや相性なども考慮して支援することで入浴頻度が増えている。入浴しない日は清拭を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況を観察し、疲れている時や眠そうな時は休んでいただくようにしている。また、夕方からは声のトーンや大きさに気をつけ、安心できる環境・雰囲気作りを心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書や医療関係者のアドバイスにて内服薬の効能・副作用の把握に努めている。症状の変化により、医療関係者に確認を取りながら薬の量や内服時間の変更等を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の能力に応じて茶碗拭きや食事の準備・片付け等を行っていただいている。また、本人が使用していた茶碗を使用したり、当時の歌を唄って昔を懐かしんで頂く等支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩やドライブへ出掛ける等、季節を楽しめるように努めている。家族との外出支援や、家族との相談で本人の希望が叶えられるような計画も行っている。	外食、カラオケ、花見、紅葉見物などに出かけてたり、天気の良い日は前の駐車場を散歩したりしている。外食では普段見られないくらい食欲がでたり、カラオケから帰ってから表情が明るかったり、利用者の希望を考慮した支援をしている。	重度化する中で外出が難しい状況も徐々に生じているが、利用者には以前いった温泉にまた行きたいなどの願いがある。頻度等にはこだわらずとも、そのような願いを実現できる方法を模索していただいたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所にてお預かりし、買い物や通院時に支払いを本人にして頂く等支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えがある場合は、職員が電話番号を押し、本人と変わって話しをして頂けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居室・食堂等季節の花や行事等の飾り付けをし、季節感を感じていただけるような工夫をしている。また、共用空間としての食堂・ホール等は天候によってブラインドやカーテンで光を調節したり換気を行い、居心地良く過ごせるようにしている。	各スペースに季節感を出すように季節の花を飾ったり、話声が聞こえると安心して安定している利用者に配慮している。また2階から出れる屋上は広々としており、近隣を見渡せるほか、ホール等からも岩手山を眺めることができ、朝日に照らされた風景や四季折々の光景を眺めながら過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では一人ひとり自由に行動していたき、危険が及ばないような配慮をしている。また、気が合う利用者同士会話できるよう、座る位置等に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んでいただいている。また、状況を見て家族と相談しながら家具の種類や配置・ベッドの調整等を行っている。	家で使っていたイスや物干しを置いたり、趣味の大正琴や手芸用品をおいたり、家族の写真を貼ったり等、それぞれの好みや習慣が部屋には表れている。家族も協力しながら、徐々に様々な物品を部屋に揃えていっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごして頂けるようテーブルや椅子・家具の配置を工夫し、居室やトイレ等分かりやすく表示している。		